

研究アシスタント雇用・実証研究再現性に関するアンケートおよびパネルディスカッション

申請者：古川知志雄（横浜国立大学）

2025年度春季の日本経済学会大会に合わせて、実証研究の過程と信頼性に関する経済学研究者を対象とするアンケートを実施したい。(1)研究アシスタント(RA)雇用の状況や、(2)実証研究の再現性やデータ・コード公開に関する懸念に焦点を当てて、研究者コミュニティでの共通理解をつくりたい。

目的：

1. 実証研究のプロセスに関する実態・現状・問題認識を把握するための資料を整理すること
2. 2023年・2024年の夏に「応用社会科学 RA ブートキャンプ」として、5日間の RA トレーニング・プログラムを参加者 50名・オーガナイザー 10名程度で開催してきた。こちらの取り組みの内容に、研究者コミュニティの広いニーズや問題意識を反映すること

企画セッション内容：研究アシスタントの雇用における工夫を知りたい先生や、RA ブートキャンプの取り組みにご関心のある先生を想定して以下の内容で開催したい。

- 企画の背景と趣旨 (5 分程度)
- アンケート結果の報告 (30 分程度)
- RA ブートキャンプの紹介 (10 分程度)
- アンケート結果をふまえてのパネル・ディスカッション (25 分程度)
- 質疑応答・会場でのディスカッションなど (20 分程度)

オーガナイザー / 登壇者：神林龍（武蔵大学）、深井太洋（学習院大学）、古川知志雄（横浜国立大学）

討論者：澤田康幸（東京大学）、野口晴子（早稲田大学）、遠山祐太（早稲田大学）、中島賢太郎（一橋大学）、後藤潤（GRIPS）

アンケート内容：

- 規模（雇用している学生の人数、仕事の時間）
- 技能と採用経路（どのような技能を求めているか）
- 特に苦労している側面や障壁
- 特に判断で迷う側面（RAとして携わるか、共著として携わるか）
- 実証研究の再現性に関する課題認識

*アメリカにおいて"Survey of Pre-Doctoral Research Experiences in Economics"というサーベイが RA 雇用実態について調査を行っている。こちらの内容を参考にしたい。

アンケート期間：2025年2月・3月の期間を経てアンケートを準備し、4月中に日本経済学会会員の研究者を主に対象として実施したい。